



クラウド運用モデルの構築

AWS 規範ガイド



AWS 規範ガイド: クラウド運用モデルの構築

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

ホーム	1
序章	2
クラウド運用モデルとは何であり、それが必要なのはなぜですか?	2
主なコンセプト	2
機能	2
これは継続的なジャーニーである	3
AWS クラウド運用モデルフレームワーク	3
Cloud Center of Excellence はクラウド運用モデルではない	4
ワークフォースの管理	5
視覚	7
ビジョンドキュメントの作成	7
クラウド運用モデルジャーニー	10
ロードマップの定義	11
ロードマップの実装	11
開始する場所と方法を決定する	11
成功に向けて組織化する	12
変化を推進するメカニズムを確立する	17
成熟度の段階的な向上	17
進捗状況の測定	18
メトリクスの視覚化	19
結論	23
寄稿者	24
詳細情報	25
ドキュメント履歴	26
用語集	27
#	27
A	28
B	30
C	32
D	35
E	39
F	42
G	43
H	44

I	46
L	48
M	49
O	53
P	56
Q	59
R	59
S	62
T	66
U	67
V	68
W	68
Z	69
.....	lxx

クラウド運用モデルの構築

Amazon Web Services ([寄稿者](#))

2023 年 8 月 ([ドキュメント履歴](#))

クラウドは、ビジネスや情報テクノロジーにおけるトランスフォーメーションを可能にする 1 つの要素です。しかし、新しいクラウドのケイパビリティやサービスが既存のオンプレミス環境と並行して加速するにつれて、組織は、現在の責任と新しい働き方への移行との間でバランスを取る必要があります。このトランスフォーメーションによってクラウドのメリットが得られるようになりますが、既存の運用プラクティスの中断を最小限に抑えて実行する必要があります。

最も成功した顧客が使用している傾向とアプローチをレビューした結果、明確に定義されたクラウド運用モデルを持つことで、現在の状況と将来の目標とのバランスを取ることができるようになり、それが導入の迅速化やトランスフォーメーションの価値を高めることにつながることを確認しました。

この戦略ドキュメントでは、AWS によるクラウド運用モデルの定義を提示し、独自のクラウド運用モデルを構築しようとしている組織に対して規範的なガイダンスを提供します。

目次

- [序章](#)
- [視覚](#)
- [クラウド運用モデルジャーニー](#)
- [結論](#)
- [寄稿者](#)
- [詳細情報](#)

序章

このドキュメントでは、クラウド運用モデルの定義と、組織が独自のモデルを構築する際に焦点を当てるべきコアケイパビリティについて説明します。

クラウド運用モデルとは何であり、それが必要なのはなぜですか？

ここで使用されるクラウド運用モデルというフレーズは、1つ以上のクラウド環境を構築し、成熟させ、最適化するために使用される、IT組織内の運用モデルを指します。IT組織を全体的なトランスフォーメーション戦略と同じ方向に進めるためのさまざまなケイパビリティにわたって、成熟度を高められるようにする能力がますます重要になっています。顧客に対して、クラウド運用モデルを定義する機会を活用して、クラウドファーストの働き方を探求するように助言しています。このような働き方は、組織全体が継続的に進化するための強固な基盤を提供します。これまでの経験から、クラウドジャーニーのこの側面に時間を費やさない場合、イニシアチブは行き詰まり、組織はトランスフォーメーションの取り組みから価値を実現することに苦労することが示されています。

この見解は、Gartnerのウェブサイトに掲載されているレポート「[Predicts 2023: Collaborate, Automate and Orchestrate to Optimize Costs and Value During the Economic Crisis](#)」によって裏付けられています。このレポートでは、インフラストラクチャおよび運用のリーダーは、コストを最適化しながら価値を提供するという目標を達成するために、ワークロードのオーケストレーション、自動化、および共同プラクティスを使用すべきであると要約されています。

しかし、これらの推奨事項をただ実装するだけでは不十分です。現在のケイパビリティ、それらのケイパビリティが運用要件を満たすためにどのように編成されているか、およびチーム全体にわたって成熟度を高めるための計画について理解することが必要です。実質的に、クラウド運用モデルを理解する必要があります。そうすることで、クラウド戦略を実行するのに適切な組織体制を整えることができます。その後、ケイパビリティが継続的に成熟し、組織がトランスフォーメーションからより多くの価値を得るにつれて、クラウド運用モデルは時間の経過とともに進化する必要があります。

主なコンセプト

まず、本書で使用する主要な概念を定義します。これは、クラウドプロバイダーによって用語やアプローチが異なる場合があるためです。

機能

人材、プロセス、およびテクノロジーをカバーする用語を総称してケイパビリティを使用しています。クラウドのテクノロジーの側面にのみ焦点を当て、人材やプロセスの側面の優先順位を下げる

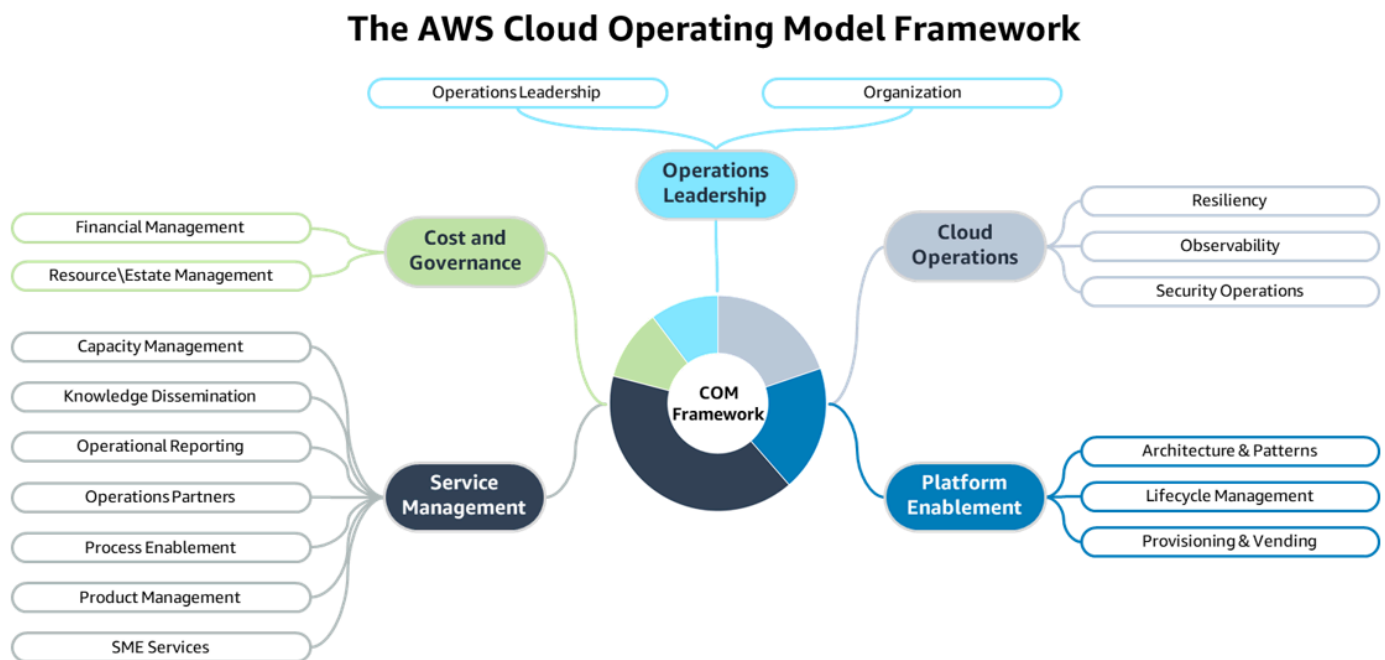
傾向があるため、ケイパビリティという用語は、これら 3 つの側面を結合して何かを行う能力を説明します。この総称は、クラウドジャーニーの各時点で必要となる人材、プロセス、およびテクノロジーの変更点の特定も簡素化します。

これは継続的なジャーニーである

新しい運用モデルを定義することは 1 回限りの取り組みではありません。現在の組織のニーズに対応できるモデルと、それをサポートするメカニズムを構築する必要がありますが、これらは、クラウドのケイパビリティが成熟するにつれて、変化するニーズに合わせて時間の経過とともに進化し、継続的に改善できる必要があります。

AWS クラウド運用モデルフレームワーク

AWS クラウド運用モデル (COM) フレームワークは、次の図に示すように、17 のドメインと 5 つの視点にグループ化された 73 の機能で構成されています。



視点	運用のリーダーシップ	クラウドの運用	プラットフォームの実現	サービス管理	コストとガバナンス
----	------------	---------	-------------	--------	-----------

ドメイン	<ul style="list-style-type: none"> 運用のリーダーシップ 組織 	<ul style="list-style-type: none"> 回復性 オブザーバビリティ セキュリティオペレーション 	<ul style="list-style-type: none"> アーキテクチャとパターン ライフサイクル管理 プロビジョニングと供給 	<ul style="list-style-type: none"> 容量管理 知識の普及 運用レポート 運用パートナー プロセスの有効化 製品管理 SME サービス 	<ul style="list-style-type: none"> 財務管理 リソース/資産の管理
------	--	---	--	--	--

本製品のようなフレームワークを使用することにより、トランスフォーメーションジャーニーの目標に沿って組織を理解、編成、設計、実装し、成熟させる際の一貫性が提供され、クラウド運用モデルの開発がサポートされます。

Cloud Center of Excellence はクラウド運用モデルではない

Cloud Center of Excellence (CCoE) は、クラウドに移行する際やクラウドでワークロードを実行する際によく知られた概念となっています。しかし、CCoE はクラウド運用モデルではありません。これは、調整、実現、および自動化を通じて企業全体でのクラウド導入の成功を支援する、組織横断的なリーダーシップ機能です。一方で、クラウド運用モデルは、1つ以上のクラウド環境を構築し、成熟させ、最適化するために IT 組織内で使用される運用モデルです。

次の表は、これら 2 つの用語の違いをまとめたものです。

	クラウド運用モデル	Cloud Center of Excellence
ユースケース	クラウド上で重要なワークロードを運用しているものの、従来のオンプレミスのアプローチと比較してクラウドから得られると期待していた主要業績評価指標 (KPI)、ビジ	進捗が停滞している場合、または、自律的な作業のためのベストプラクティスを標準化することによって、クラウドの導入と新しい考え方、意思決定、行動、イノベーション

	ネス成果、または価値を達成できていない場合	の方法を組織として実現する必要がある場合
含まれるチーム	IT チームとビジネスチーム	クラウドリーダーシップチーム、クラウドビジネスオフィス、およびクラウドプラットフォームエンジニアリングと連携した、機能横断的かつマルチスキルのリソース
フォーカス	組織の既存の運用モデルとケイパビリティを成熟させてクラウドファーストの働き方を採用することにより、クラウドワークロードをサポート、実現、および最適化すること	移行とイノベーションを可能にするために、技術的および文化的基盤を加速し構築するためのエンティティを確立すること
期待される成果	運用効率の向上、IT デリバリーのコスト削減、リスクの低減、俊敏性の向上、技術ケイパビリティとサービスの革新性の向上	迅速で持続可能なクラウド導入; セルフサービス環境、中断の最小化、標準化されたアプローチとパターンの採用の拡大、およびデリバリーを加速させる生産性の向上による、クラウド駆動型プロダクトチームの強化; クラウドの俊敏性と価値の最適化; 継続的なリスク軽減を通じたスケール

クラウド運用モデルと CCoE に必要とされるケイパビリティには類似点があります。しかし、CCoE はクラウドへの移行に焦点を当てているため、人材の有効化や組織の加速など、より多くのケイパビリティを必要とします。成功するためには、CCoE は既存の運用モデルに適合し、その中で機能する必要があります。しかし、この 2 つは別個の概念であり、この 2 つの用語に互換性はありません。

ワークフォースの管理

当社は、オンプレミスからクラウド環境に移行する顧客と連携することが多くあります。これは、AWS との提携を開始した時点では、インフラストラクチャとワークロードの大部分が依然と

してオンプレミスにあり、引き続きその管理を必要としていることを意味します。その管理は、多くの場合、移行プログラムまたはトランスフォーメーションプログラムの一員である、同じチームによって行われる必要があります。「[25 Amazing Cloud Adoption Statistics \[2023\]: Cloud Migration, Computing, and More](#)」(Zippia.com、2023年6月22日)のレポートにおいて、その筆者は、調査対象の企業の94%が何らかの形でクラウドサービスを使用していると述べています。しかし、同じレポートで、2026年までに企業のIT予算のうちクラウドの費用になるのは45%のみになるとも述べられています。これは、クラウドサービスが広く普及しているにもかかわらず、大規模なオンプレミス資産が引き続き存在しており、その管理が必要であることを意味します。そのため、多くの企業は、クラウドサービスと非クラウドサービスの両方を提供できるようにワークフォースを編成しています。クラウド運用モデルを段階的に構築するということは、現在必要なことと次に必要になることの両方に焦点を当てることができるため、関与するチームにとって持続可能な形でワークフォースを管理できるように、作業を進めながら適応できることを意味します。

視覚

前のセクションで強調したように、クラウド運用モデルの定義は、1つ以上のクラウド環境を構築し、成熟させ、最適化するモデルです。これは、目標とするビジネス成果をサポートするクラウドファーストの働き方を採用し、その活用に熟達できるように、既存の (IT) 運用モデルを成熟させることによって実現されます。

当社は、顧客がクラウド運用モデルを確立するのを支援する際に、2つの一般的な課題を観察してきました。それは、どこに焦点を当てるべきか、そしてトランスフォーメーションにおける勢いをどのように維持するか、ということです。働きがいがあり、かつ組織にも結果と価値をもたらすモデルを確立するまでに、組織が複数回の試行を重ねるのは珍しいことではありません。

これが、[AWS クラウド導入フレームワーク \(AWS CAF\)](#) の最初のステージが **構想** である理由です。

構想フェーズは、ビジネス成果を加速させるのにクラウドがどのように役立つかを実証することに焦点を当てています。これを実現するために、戦略的ビジネス目標に沿って、4つのトランスフォーメーションドメインのそれぞれにわたるトランスフォーメーションの機会を特定し、優先順位を付けます。トランスフォーメーションイニシアチブを、主要なステークホルダー (変革を推進し影響を及ぼす能力を持つ上級の個人) および測定可能なビジネス成果と関連付けることは、トランスフォーメーションジャーニーを進めるにつれて価値を実証するのに役立ちます。

ほとんどの企業には、ビジョンを定義するための独自の方法があります。AWS では、多くのチームが、ミッションステートメント、ケイパビリティを構築するチームが優先順位の決定に使用する一連の理念、および関連するよくある質問を含むプレスリリース文書 (PR-FAQ) を定義することによってビジョンを確立しています。当社は、このアプローチを使用して顧客がクラウド運用モデルを確立するのを支援します。さらに、このアプローチを状況に合わせて調整することにより、クラウド運用モデルを実装するチームの足並みを揃えるのに役立ち、連携する他のチームに対して参照情報を提供するための、ビジョンドキュメントまたは憲章を作成します。

ビジョンドキュメントの作成

ビジョンドキュメントには、ミッションステートメント、理念、ドライバー、および成果が含まれます。各セクションは、リーダーシップチームとともに定義され、全体的なビジネス戦略にリンクされ、その後、誰でも読めるように内部サイト (Wiki など) に公開される必要があります。

クラウド運用モデルのミッションステートメントは、クラウドが組織にもたらすと期待される価値にリンクされる必要があります。これには、クラウドの使用に関するビジネスの推進要因、優先順位、戦略、および義務を反映させる必要があります。

理念とは、チームの足並みを揃え、重要な意思決定に関して全員を合意に導くのに役立つ原則または信条です。当社と顧客のエンゲージメントで使用された理念の例をいくつか示します。

- 少数よりも多数を優先します。単一の部門やビジネスユニット向けのサービスよりも、組織全体にとって有用なサービスの提供を優先します。
- 顧客を喜ばせることを目指します。複雑さを抽象化し、引き継ぎを最小限に抑えて運用上の労力を軽減することで、アプリケーションチームを加速させる、使いやすく高度にスケーラブルなサービスを作成および実行します。
- 自動化とセルフサービスを優先します。セルフサービスと自動化を手動プロセスより優先することにより、アプリケーションチームの高速化を支援します。
- スピードが重要: 小さく始めて反復します。広範な分析よりも段階的な提供を優先します。

最初の理念から最後の理念まで順に、優先度レベルが暗黙的に設定されています。この順序は、より広範なビジネス成果をサポートするために、チームが最も重要な成果物に焦点を当てるのに役立ちます。

ミッションステートメントと理念を定期的にレビューして反復し、組織の要件、クラウド運用モデル、および現在のクラウド成熟度レベルを反映するようにそれらを更新することを推奨しています。

ドライバーと成果は、ビジネス戦略への関連付けを提供します。ドライバーとは、クラウド運用モデルを構築する必要性 (何がその変革を推進しているか)、およびそれらがクラウド運用モデルにどのように影響するかを示すものです。

成果とは、変革から期待できること、またはその変革によって可能になるジャーニーの最初のステップを示すものです。これらは将来を見据えたステートメントであり、変革が実装される際の期待を捉えています。成果を文書化することは、メリットが技術的な結果だけでなくビジネス価値にも結び付いていることを確実にするために有用です。

クラウド運用モデルを構築する際には、このアプローチを使用して、解決すべき主要な問題、提供すべきメリット、およびユーザーエクスペリエンスがどのように見え、感じられるべきかを特定することを推奨します。

同様の顧客中心のアプローチを取ることに関心がある場合は、Richard Halkett のプレゼンテーション「[Working backwards: Amazon's approach to innovation](#)」(AWS re:Invent 2020) を視聴することを

お勧めします。このプレゼンテーションでは、イノベーションを推進し、新しい製品やサービスを設計するための Amazon の手法について説明しています。

どの方法を使用するかにかかわらず、目標とするビジネス成果に沿って、クラウド運用モデルの合意されたビジョンを作成および公開することは非常に重要です。次のステップは、そのモデルをクラウド導入の現在の状態に合わせて調整することです。

クラウド運用モデルジャーニー

ビジョンドキュメントによって目標とする状態を明確になりましたが、ビジョンを現在のケイパビリティと結び付け、そのうえで次のステップを理解するためには、クラウド導入ジャーニーにおける自分たちの現在地を把握する必要があります。多くのお客様は自分たちがどこへ向かいたいのかに焦点を当てているものの、そのジャーニーにおいて最初の一步が何であるべきかを見極めることは難しい場合があることがわかっています。

Envision ステージの後、CAF はさらに 3 AWS つのフェーズを定義します。

- **整合性:** 6 つの CAF の視点 (ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用) AWS にわたる能力ギャップの特定、組織間の依存関係の特定、ステークホルダーの懸念と課題の浮上に焦点を当てます。
- **開始:** 本番環境でパイロットイニシアチブを実現すること、および段階的なビジネス価値を実証することに焦点を当てます。パイロットは、大きな影響力を持つものである必要があります。これらが成功したときには、将来の方向性に影響を与えるのに役立ちます。
- **スケール:** 本番環境のパイロットとビジネス価値を望ましい規模に拡大すること、および確実にクラウド投資に関連するビジネス上のメリットを実現して維持することに焦点を当てます。

AWS CAF の目的はクラウドの準備状況を改善することであるため、スケールフェーズの後に別のフェーズを追加します。

- **最適化:** さらなるビジネス上のメリットを提供するために、最終的なソリューションの見直しと改善を継続的に行うことに焦点を当てます。

これらのステージを COM Framework AWS と一緒に使用すると、各時点で重要な機能を特定できます。例えば、開始フェーズにいる場合は、スケールフェーズでより関連性の高いリソース/資産の管理のケイパビリティよりも、アーキテクチャとパターンのケイパビリティに関心を持つことが多くなります。

各ステージで特定のアクティビティを実行します。例えば、調整フェーズでは、現在持っているケイパビリティと成熟度レベルを特定し、最初にどのケイパビリティに焦点を当てる必要があるかを判断します。開始フェーズにいる場合は、次のレベルの成熟度を構築するためのパイロットチームを特定することが重要になります。これには計画が必要となるため、ロードマップを定義することをお勧めします。

ロードマップの定義

Amazon の VP 兼 CTO であるワーナー ヴォゲルスによる次の引用を見たことがあるかもしれません。「You build it, you run it.」

これは、2006 年のインタビュー「[A Conversation with Werner Vogels: Learning from the Amazon technology platform](#)」(ACM Queue、Vol. 4、Issue 4、2006 年 6 月 30 日)からの引用です。ワーナーは、Amazon におけるチームの機能 (運用モデル) について話し、開発と運用の間の壁を取り除くことについて説明しました。製品を構築、提供、およびサポートするために必要なすべてのケイパビリティを備えた部門横断的なチームを確立することは、真のデジタルトランスフォーメーションの要件となっています。

しかし、お客様のクラウド運用モデルによってサポートされるそのデジタルトランスフォーメーションは、多くの場合、一度に管理するには変化が大きすぎると見なされます。代わりに、当社は「You build it, you run it」を目的地に導くロードマップを伴うジャーニーの類推を考えます。ケイパビリティの成熟度が向上するたびに、お客様は目的地に近づきます。目的地に到達するまでに、お客様の組織は、変化するビジネスの成果に合わせてクラウド運用モデルを継続的に更新する方法を開発し、ロードマップは次の目的地を含んだものに更新されているでしょう。

この段階的アプローチをサポートするために、組織のビジョン (ミッションと推進要因) に直接関連し、目的地 (成果) に到達するために必要なステップ (理念によって導かれる成熟度の向上) を定義するロードマップを作成することを推奨しています。

ロードマップの実装

ロードマップを確立したら、それを実装する必要があります。お客様が次の課題に直面するのはここであることがわかりました。つまり、考えることに時間を費やしてきたお客様が、今度は実行することに移行する必要があります。戦略を実装に結び付けるために、次のステップを推奨しています。

- [開始する場所と方法を決定する](#)
- [成功に向けて組織化する](#)
- [変化を推進するメカニズムを確立する](#)
- [成熟度を段階的に向上させる](#)

開始する場所と方法を決定する

これは簡単に聞こえますが、達成すべきことが非常に多いため、開始点を見つけることはしばしば困難であり、議論の対象となる問題です。クラウドに移行中の組織には注力すべきことが多数あるた

め、そのイニシアチブがコンテキストの中で適切に位置付けられていない場合、手に負えないものになる可能性があります。長年にわたって顧客のトレンドは進化してきましたが、一貫した開始点は[トランスフォーメーションのリーダーシップ](#)です。トップダウンで指針と戦略を推進し、ミッションステートメント、理念、および PR-FAQ を作成することで、中間管理職や個人が自律的に意思決定を行い、明確性を向上させ、クラウドトランスフォーメーションからビジネス価値を生み出すことが可能になります。この取り組みまたは類似のものを実施していない場合、それを最初のタスクとして行うことを推奨します。

この取り組みでは、他のテクノロジートランスフォーメーションとは異なり、クラウドトランスフォーメーションはテクノロジーをビジネスに近づけるものであるということを認識する必要があります。技術は、俊敏性、安定性、コスト最適化、および類似の成果を実現することで、ビジネスがより広範な目標を達成するために使用するレバーです。お客様は、このトランスフォーメーションをテクノロジー部門およびビジネス部門と連携して計画する必要があります。その際、組織の 3~5 年の戦略から逆算しながらその過程で目標を特定し、必要に応じて方向転換することを恐れないようにしてください。

成功に向けて組織化する

組織が成熟するにつれて、クラウド移行、導入、トランスフォーメーションの目標を達成するための組織の構造は変化します。これを理解し、準備し、意図を持って取り組むことが、成功を確実にするために重要です。

一般的に、ジャーニーの開始時点では、最大規模のチームがオンプレミス環境で作業します。その後、クラウド導入が進むにつれて、これらのチームはクラウドプラットフォームの構築、成熟化、運用、最適化へと移行し、組織はこれらの各ステージにおいて新しい作業方法に適応する必要があります。組織がワークロードの 5~10 パーセントをクラウドに移行したときに (開始フェーズからスケールフェーズへ移行するタイミング)、困難ではあるが重要な変化が生じることが確認されています。この時点では、移行の規模がフルタイムの変更を正当化するほど大きくないため、組織はオンプレミスのチームを使用してクラウドリソースを運用します。その結果、これらのチームは既存の責任と新しい責任のバランスを取る必要が生じます。同時に、クラウドサービスの運用を求められているオンプレミスのチームには、急激な学習曲線を伴う新しいスキルが必要となります。

組織を理解し、これらの変化を可能にするための計画を策定するために、IT 組織全体にわたるチームのトポロジを確認することを推奨しています。IT 組織内における機能の配置と相互連結を理解するために、顧客とともにこの方法を使用します。これは多くの場合、組織構造とは異なります。その後、トランスフォーメーションのステージやマイルストーンに対して成果を提供するためにどのように組織化すべきかについてのガイドランスとして、AWS COM フレームワークを使用します。組織構造に対して必要となる可能性のある変更については、この取り組みを通じて示されます。

当社が顧客とともに使用してきたトポロジには、分散型、集中型、およびフェデレーション型のモデルなどがあります。これらは、[AWS Well-Architected フレームワークのオペレーショナルエクセレンスの柱](#)で説明されている運用モデルの 2 x 2 表示を拡張したものです。

分散型

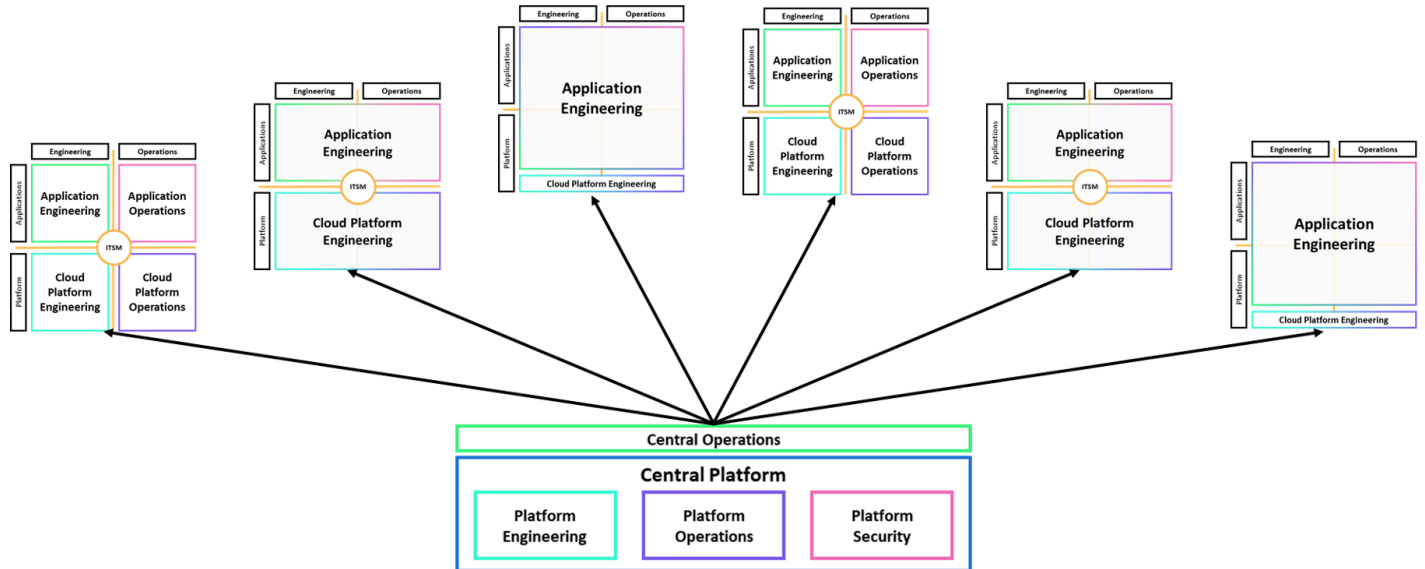
さまざまな地域や業種セグメントにまたがって事業を展開する大規模なグローバル企業では、次の図に示すような分散型モデルが使用されることが多くあります。これらの企業では、個々のビジネスユニットが独自の IT 提供体制を持っており、それが他の地域やビジネスユニットと重複することがあります。しかし、これは多くの場合、その地域内で自律性と専門性を提供するための方法として理解され、受け入れられています。



分散型アプローチを使用することは、各地域またはビジネスユニットが、その地域またはビジネスユニットのニーズに合わせて調整された独自のクラウド運用モデルを持つことを意味します。

一元化

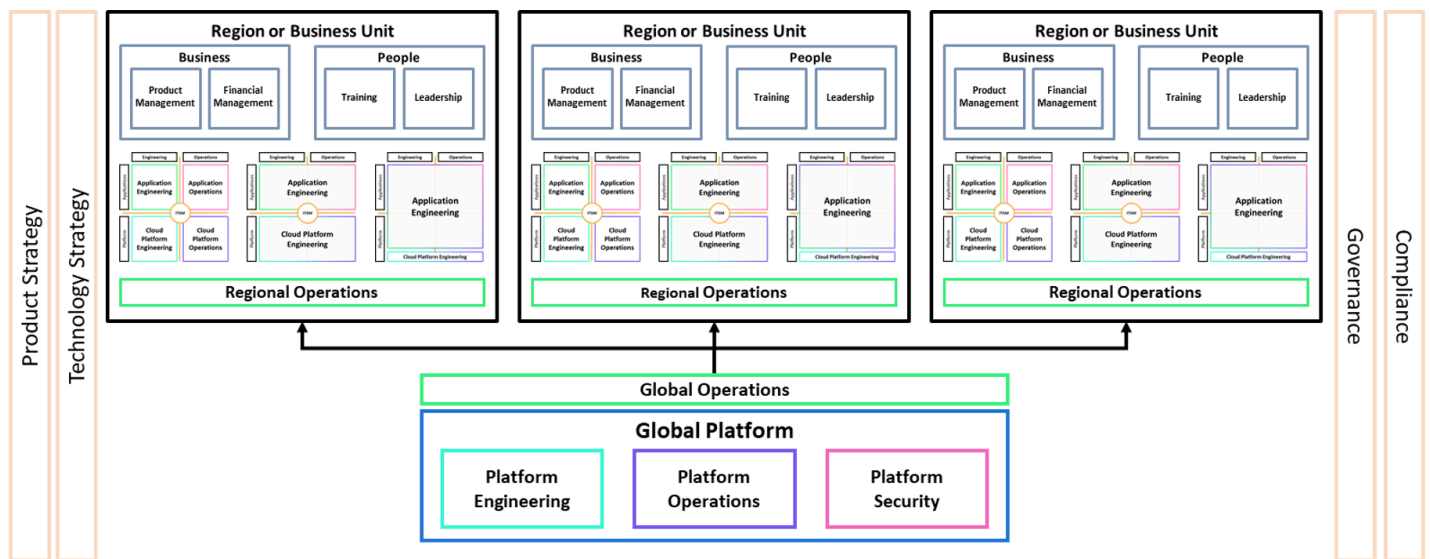
集中型の IT 機能は、最も頻繁に目にするモデルです。このモデルが導入されている場合、顧客はクラウド運用モデルを確立する際に、同じトポロジを維持しようとしています。これについては、以下の図で示されています。



このモデルでは、中央チームが厳選されたプラットフォームを提供します。このプラットフォームは、独自のクラウド運用モデルを持つワークロードチームが使用できます。このアプローチにより、ワークロードチームは、使用しているプラットフォームのサービス、運用、セキュリティについて心配することなく、エンドカスタマーに提供する価値に注力できます。このモデルは、小規模な企業により適しています。しかし、大規模なグローバル組織では、ワークロードチームの数は数百あるいは数千になる可能性があります。中央プラットフォームの利点を失うことなくこのスケールで管理するために、組織は頻繁にフェデレーション型モデルに移行します。このモデルについては次のセクションで概説します。

Federated

多くの組織がフェデレーション型 IT モデルを採用します。なぜなら、このモデルではクラウドプラットフォームに対して責任を持つ中央機能が提供される一方で、ワークロードレベルでさまざまな運用モデルが可能になるためです。これは、中央チームが、最低限の基準に合わせて作業するという制約なしに、組織に対して可能な限り最善のプラットフォームを提供することに集中できることを意味します。次の図は、フェデレーション型モデルを示しています。



大規模な組織において、フェデレーション型モデルはエンジニアリングチームに必要となる自律性を提供する一方で、中央チームがすべてのワークロードに共通するプラットフォームおよび差別化されない重労働を提供することを確実にします。このモデルでは、中央チームはエンジニアリングチームと同じ製品中心の方法で作業する必要がありますが、彼らの製品はプラットフォームです。

ジャーニーに合わせたトポロジの変更

選択するトポロジは会社の規模に応じて変わるだけでなく、クラウドジャーニーのステージに合わせた調整も行われます。部門やチームの編成は静的ではなく、クラウド導入の各ステージに応じて変化します。これは、環境が変化するにつれて、さまざまなトポロジを設計、議論、および拡張する可能性があることを意味します。影響要因の例としては、次のものがあります。

- 概念実証 (POC) からパイロットワークロードへの移行
- 地理的な拡張やビジネスユニットの拡張
- 製品中心のチームへの移行
- 共有コンポーネントまたはパターンから規模の経済の恩恵を受ける機会
- アーキテクチャ要件よりもアプリケーションおよびサービス設計に影響を及ぼす、[コンウェイの法則](#)の実現
- クラウドファーストの指示やその他のトップダウンのイニシアチブ
- 互換性のないチーム目標や組織によって引き起こされる KPI またはビジネス目標の未達

変化を推進するメカニズムを確立する

Amazon 内では、メカニズムは次のように定義されています: インプットをアウトプットに変換する完全なプロセスであり、組織レバーから組み立てられます。プロセスをサポートし、成果が確実に満たされるようにするために、データとフィードバックを使用します。各組織は異なるため、クラウド運用モデルのジャーニーもそれぞれ異なりますが、それらはすべて変化を推進するためのメカニズムを必要とします。

クラウド運用モデルの実装に必要な変化に合わせて、メカニズムを理解し、開発することに時間を費やすことをお勧めします。一般的なアプローチは、アジャイルの原則を採用することです。アジャイルのメカニズムは、サイロ化されたチーム間の組織的な障壁やプロセスに基づく障壁を取り除き、フィードバックループを作成することにより、組織が最大のビジネス価値を生み出す最も影響力のあるアクティビティのイノベーションに時間を費やせるようにします。

成熟度の段階的な向上

クラウド運用モデルのコンテキストにおける成熟度とは、お客様のケイパビリティがクラウドファーストの働き方にどの程度近いかを示します。例えば、プロセスはどの程度自律的であるか、イノベーション (会社の変革) と比較して、通常業務 (会社の運用) を管理するためにどの程度の人間の関与が必要となるか、などです。アクティビティが後者 (イノベーション) により重点を置いている場合、(クラウドの) 成熟度は低く、前者 (通常業務) に重点を置いている場合、成熟度は高くなります。成熟度スケールが低いことは否定的なことではありません。これは、ジャーニーのどの段階にいるかを反映しているだけです。目的は、自分がどこにいて、どこに到達する必要があるかを理解することです。AWS お客様と連携するときは、AWS COM Framework 内の成熟度スケールを使用して、ジャーニーのステップを提供します。

メカニズムを使用して、AWS COM Framework 機能全体の成熟度を段階的に増やすことをお勧めします。このように当社が顧客と連携してきた例として、成熟度レビューと優先順位付け (インプット) を成熟度の向上 (アウトプット) に変換し、その後、結果を検証し必要に応じて調整するために、[ゲームデー](#)のような経験に基づくイベント (フィードバックループ) を実施することなどが挙げられます。これらのメカニズムを顧客とともに確立することで、この組織的な強みが構築されたときには、現在のマイルストーンを達成できるだけでなく、ジャーニーの初期段階を超えて持続する段階的な改善が可能になることがわかりました。

組織のケイパビリティを成熟させることに注意を払い、ロードマップの特定の時点で特定のケイパビリティに必要な変化を段階的に構築することは、戦略と実装を結び付けます。これは、それまでの成果の上に構築することで得られる規模の経済を活用することにも役立ちます。

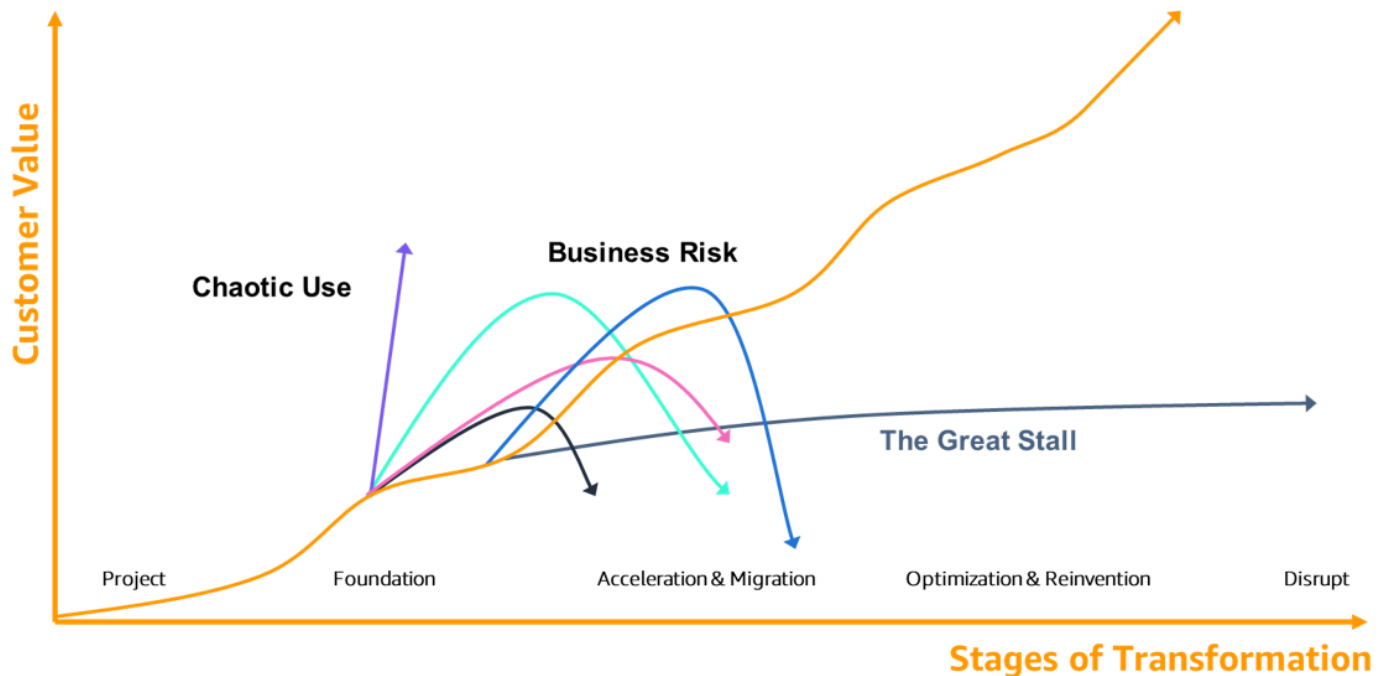
進捗状況の測定

ここまでのセクションでは、主にクラウドリーダーがクラウド運用モデルに関する説得力のあるビジョンをどのように作成できるかについて説明しました。その中で、クラウド運用モデルの構築をサポートするために、戦略を実装に結び付ける方法についてのガイドランスを提供しました。また、COM Framework AWS などのフレームワークが成熟度レベルを理解して開発し、組織のニーズを満たす能力のロードマップを構築する必要性についても説明しました。必要となる要素がもう 1 つあります。それは、進捗状況を測定し、勢いを維持するために方向転換が必要な場所を示すための KPI を確実に確立することです。

内部 AWS トランスフォーメーションコミュニティで最もよくある質問の 1 つは、「顧客が実際にビジネスをトランスフォーメーションしているかどうかをどのように測定できますか？」です。

なぜこの質問が重要であり、それに対して何ができるのかを理解するためには、Eric Tachibana による 2015 年の re:Invent プレゼンテーション「[9 Best Practices to Avoid A Stalled Cloud Transformation Program](#)」を参照してください。このトークでは、Eric が、顧客がクラウド導入ジャーニー (グレートストール) を遅らせたり停止したりする方法を示し、これらの遅延を正常に加速した AWS 顧客から収集されたベストプラクティスを提供します。

次の図は、The Great Stall で何が起こる可能性があるかを強調しており、Eric はそのフェーズを乗り越える方法について説明しています。その議論をさらに進めると、The Great Stall を乗り越えて前進し、ジャーニーを管理するためには、指標を確立し、進路を修正する能力を持つことが必要であると言えます。



クラウドサービスの導入と利用によって、このトランスフォーメーションジャーニーが可能になります。そのため、機能するクラウド運用モデルが存在しない場合や、ジャーニーの可視性が欠如している場合には、導入が The Great Stall に陥る可能性があります。したがって、クラウドリーダーが**バランススコアカード**の形式でのオブザーバビリティの確立を検討することを推奨しています。このスコアカードは、デジタルトランスフォーメーションまたはクラウドトランスフォーメーションに合わせた一連のメトリクスで構成されます。現在の位置を把握し、今後の問題を予見する方法を提供します。

メトリクスの視覚化

メトリクスを可視化するためにバランススコアカードを構築することは、現在のトランスフォーメーションの取り組みを、それらが提供しようとしているビジネス価値のコンテキストにおいて理解し、位置づけるのに役立ちます。AWS チームが顧客と使用するアプローチの 1 つは、変換ダッシュボードを作成することです。このアプローチは、クラウドトランスフォーメーションを正常に完了した顧客のアナリスト調査と、世界中の複数の業界セグメントにわたる 5,000 を超える顧客の (匿名化された) AWS サービス消費データの内部分析に基づいています。

このガイドの説明は AWS クラウド サービスのみに基づいていますが、ハイブリッドまたはマルチクラウド環境にこのアプローチを拡張できます。この方法を使用して、トランスフォーメーションのためのバランススコアカードと、クラウド運用モデルジャーニーのさまざまなステージにいる顧客に関連付けることができるいくつかのパターンを特定しました。このアプローチの目的は、顧客が変革

的成長の全体的なレベルを追跡する方法を特定し、停滞を回避し、全体的なビジネストランスフォーメーションを可能にするものとしてクラウド運用モデルの成熟を確実に継続できるようにすることです。

トランスフォーメーションダッシュボードのバランススコアカードには、次の4つのセグメントがあります。

- 俊敏性と市場投入までの時間
- 戦略的利点 (およびサービスのイノベーション)
- リスクを軽減できる
- 運用効率

このスコアカードでは、2つのセグメントが、市場投入までの時間、俊敏性、イノベーション、および (商業環境における) 競合他社に対する優位性の獲得に関連する価値を強調しています。その他の2つのセグメントは、組織の効率性、有効性、回復力がどのように向上しているかを測定すること、および競合他社と比較して不利な状況に置かれないようにすることに焦点を当てています。次の図はスコアカードを示しています。



このマトリクス上にデータポイントをプロットすることで、組織が何に焦点を当てているかを表すことができます。これは、クラウド運用モデルが、不利な状況を回避するために構築されているのか、あるいは優位性を獲得するために構築されているのかを理解するのに役立ちます。前者の場合は、後者に焦点を当てるためのケイパビリティを発展させられるように進路を修正することをお勧めします。それは、優位性を獲得することが最大の価値を実現できる場所であるためです。

一般的には、ワークロードをリホスト (リフトアンドシフト) する大規模な移行プログラムは、不利な状況を回避することに焦点が当てられています。移行が行われた後は、Platform as a Service (PaaS) やサーバーレステクノロジーの導入などのモダナイゼーションアクティビティが、優位性の獲得をサポートします。マトリクスの例については、以下の 2 AWS のコミットされた調査を参照してください。これらのアプローチを確認し、マーケット調査に基づいて KPIs を提供します。

- 移行: [The Business Value of Migration to Amazon Web Services](#) (The Hackett Group、2022 年 2 月)。この調査において、The Hackett Group は AWS への移行の価値を、回復力、俊敏性、コスト削減、スタッフの生産性の 4 つのカテゴリにわたって測定しました。
- モダナイゼーション: [Business Value of Cloud Modernization](#) (Known、2022 年 1 月) では、クラウドサービスを通じたモダナイゼーションの価値を理解するために、22 個の固有の KPI の使用が取り上げられました。この調査では、クラウドへワークロードの移行がすでに完了している 500 社を超える企業を対象に、コンテナ、サーバーレス、マネージド分析、マネージドデータの 4 つの技術的モダナイゼーション戦略に関連付けられた価値を理解するための調査が実施されました。

クラウド運用モデルのジャーニー全体を通じて、移行とモダナイゼーションの両方の側面をカバーできる指標を選択することが重要です。そうすることで、進捗状況を追跡し、ジャーニー全体にわたってデータを比較し、進路の修正の結果を確認できるようになります。

結論

クラウド運用モデルは、1つ以上のクラウド環境を構築し、成熟させ、最適化するために必要なケイパビリティの集合です。検討かつ管理された方法でケイパビリティを構築することは、IT組織が全体的なビジネス目標と整合し、組織に価値を提供していることを確実にするために重要です。

この戦略ドキュメントでは、クラウド運用モデルを構築する方法に関するガイダンスと、構築の各ステージに対する推奨事項を提供しています。お客様が独自のクラウド運用モデルを構築して実装するために必要なアクションを実行できるように、これらの推奨事項について以下のリストにまとめました。

1. 顧客中心のアプローチを使用して、ビジョンドキュメントを定義または作成します。
2. ビジョンに関連付けられ、意図した目的地に到達するために必要なステップを概説するロードマップを作成します。
3. 関与するチームおよび変更が必要なことを把握するために、組織のトポロジを確認して文書化します。
4. ロードマップおよびトポロジの取り組みで特定された変更を推進するためのメカニズムを開発します。
5. これらのメカニズムを使用し、変更が必要であると特定したケイパビリティ全体にわたって成熟度を段階的に高めます。
6. 進捗状況を測定および追跡するためのメトリクスを確立し、必要に応じて進路を修正します。

寄稿者

本ドキュメントの寄稿者は次のとおりです。

- AWS Professional Services、Principal Operations Transformation Consultant、David Stanley
- AWS Professional Services、Principal Advisory Consultant、Russell Easter
- AWS Professional Services、Operations Transformation、Senior Practice Manager、Brian Quinn

詳細情報

詳細については、次のリソースを参照してください。

AWS リソース:

- [9 Best Practices to Avoid A Stalled Cloud Transformation Program](#) (AWS re:Invent 2015 プレゼンテーション、Eric Tachibana)
- [AWS クラウド導入フレームワーク \(AWS CAF\) 3.0](#)
- [AWS クラウド導入フレームワーク: 人材視点](#) — 「トランスフォーメーションのリーダーシップ」セクション
- [AWS Well-Architected フレームワーク: オペレーショナルエクセレンスの柱](#) — 「運用モデルの 2 x 2 表示」セクション
- [Tenets: supercharging decision-making](#) (2023 年 6 月 1 日、AWS クラウドエンタープライズ戦略ブログ、Phil Le-Brun)
- [Working backwards: Amazon's approach to innovation](#) (AWS re:Invent 2020 プレゼンテーション、Richard Halkett と Rayford Davis)

その他のリソース:

- [25 Amazing Cloud Adoption Statistics \[2023\]: Cloud Migration, Computing, and More](#) (Jack Flynn、Zippia.com、2023 年 6 月 22 日)
- [A Conversation with Werner Vogels: Learning from the Amazon technology platform](#) (ACM Queue、Vol. 4、Issue 4、2006 年 6 月 30 日)
- [Business Value of Cloud Modernization](#) (Known、2022 年 1 月)
- [Conway's Law](#) (martinfowler.com、Martin Fowler、2022 年 10 月 20 日)
- [ガートナー用語集: 運用モデル](#) (ガートナーリサーチ)
- [Predicts 2023: Collaborate, Automate and Orchestrate to Optimize Costs and Value During the Economic Crisis](#) (ガートナーリサーチ、2022 年 11 月 1 日)
- [The Business Value of Migration to Amazon Web Services](#) (Richard Pastore、Michael Fuller、Justin Gillespie、The Hackett Group、2022 年 2 月)
- [What Is a Balanced Scorecard \(BSC\), How Is It Used in Business?](#) (Investopedia、Evan Tarver、2023 年 3 月 10 日)

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2023 年 8 月 11 日

AWS 規範ガイドの用語集

以下は、AWS 規範ガイドが提供する戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行する。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの Oracle 用の Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行する。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行する。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの EC2 インスタンス上の Oracle に移行する。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: Microsoft Hyper-V アプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらを行き移るためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 廃止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセス制御」](#)をご覧ください。

抽象化されたサービス

[「マネージドユーザー」](#)をご覧ください。

ACID

[「原子性、一貫性、分離性、耐久性 \(ACID\)」](#)をご覧ください。

アクティブ/アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。[アクティブ/パッシブ移行](#)よりも柔軟な方法ですが、さらに多くの作業が必要となります。

アクティブ/パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

複数行に処理を行い、グループ全体を対象に単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUM や MAX などがあります。

AI

[「人工知能」](#)をご覧ください。

AIOps

[「AI オペレーション」](#)をご覧ください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーション制御

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の重要な要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」をご覧ください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[の ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン (AZ)

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドへの移行を成功させるための効率的で効果的な計画を立て AWS するための、のガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを整理しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための組織の準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションのガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織に混乱や損害を与えることを目的とした [ボット](#)。

BCP

「[ビジネス継続性計画 \(BCP\)](#)」をご覧ください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの「[動作グラフのデータ](#)」を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

それぞれが独立しているが、同一の環境を 2 つ作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンを 1 つの環境 (ブルー) で実行し、新しいアプリケーションバージョンを別の環境 (グリーン) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したものもあります。

ボットネット

[マルウェア](#)に感染しており、ボットハーダーまたはボットオペレーターと呼ばれる単一の当事者によって制御されている[ボット](#)のネットワーク。ボットネットは、ボットとその影響力を拡大する仕組みとして、非常によく知られています。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発した

り、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチの概要](#)」(GitHub ドキュメント)を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たないにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、AWS Well-Architected ガイドの「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータを参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、[AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#)ホワイトペーパーの「[ビジネス機能を中心に組織化](#)」セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

「[AWS クラウド導入フレームワーク](#)」を参照してください

カナリアデプロイ

エンドユーザーへのバージョンリリースを、時間をかけて段階的に行うこと。確信が持てたら新規バージョンをデプロイして、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

「[Cloud Center of Excellence](#)」を参照してください。

CDC

「[変更データキャプチャ](#)」を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストすること。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS\)](#) を使用して、AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

「[継続的インテグレーションと継続的デリバリー](#)」を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットが AWS のサービス 受信する前に、ローカルでデータを暗号化します。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの [CCoE 投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に、[エッジコンピューティング](#) に接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、「[クラウド運用モデルの構築](#)」を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が、AWS クラウドへの移行時に通常実行する 4 つの段階。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーン の作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事「[クラウドファーストへのジャーニー](#)」と「[導入のステージ](#)」で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略との関連性については、AWS「[移行準備ガイド](#)」を参照してください。

CMDB

「[構成管理データベース \(CMDB\)](#)」を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub や Bitbucket Cloud があります。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオといった、ビジュアル形式の情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、Amazon SageMaker AI では、CV 用の画像処理アルゴリズムを利用できます。

設定ドリフト

ワークロードにおいて、設定が想定した状態から変化すること。これによって、ワークロードが非準拠になる可能性があります。この状態は、徐々に生じ、意図的なものではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンの単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

[「コンピュータビジョン」](#) を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、「[データ分類](#)」を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

非一元的で分散型のデータ所有権を持つとともに、一元的な管理およびガバナンスを行えるアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスできるようにします。詳細については、「[AWS でのデータ境界の構築](#)」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、一般的に、大量の履歴データが含まれており、多くの場合、それらはクエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

「[データベース定義言語](#)」を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせます。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

深層学習

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

多層防御

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略を採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。たとえば、多層防御アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS

Organizations ドキュメントの「[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

「[環境](#)」を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、「[AWSでのセキュリティコントロールの実装](#)」の「[検出的コントロール](#)」を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)において、ファクトテーブルの定量データに関するデータ属性が含まれる小さいテーブル。ディメンションテーブルの属性は、通常、テキストフィールド、またはテキストのように扱える個別の数値で示されます。これらの属性は、一般的に、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに使用されます。

デザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[ディザスタ](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるための戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Disaster Recovery of Workloads on AWS: Recovery in the Cloud](#)」を参照してください。

DML

「[データベース操作言語](#)」を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み)で紹介されています (ポストン: Addison-Wesley Professional, 2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

DR

「[ディザスタリカバリ](#)」を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差を追跡します。たとえば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower、ガバナンス要件への準拠に影響する[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

DVSM

「[開発バリューSTREAMマッピング](#)」を参照してください。

E

EDA

「[探索的データ分析](#)」を参照してください。

EDI

「[電子データ交換](#)」を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を改善できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間で行う、ビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、[「電子データ交換とは」](#)を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティング処理。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの [「エンドポイントサービスを作成する」](#)を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

「[エンタープライズリソース計画](#)」を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#)の中央にあるテーブル。ビジネスオペレーションに関する定量的データが保存されます。一般的に、ファクトテーブルは、2種類の列で構成されます。1つは測定値が含まれる列、もう1つはディメンションテーブルへの外部キーが含まれる列です。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために、頻繁かつ段階的にテストを行う哲学であり、アジャイルアプローチでは、この考え方がきわめて重要です。

障害分離境界

では AWS クラウド、アベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界で、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を向上させるのに役立ちます。詳細については、「[AWS 障害分離境界](#)」を参照してください。

機能ブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

[LLM](#) に、タスクと望ましい出力を示す例を少数提示した後に、類似のタスクを実行させること。この手法は、プロンプトに記述された例(ショット)からモデルが学習する「インコンテキスト学

習」の一種です。数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、専門知識が必要なタスクに効果的です。「[ゼロショットプロンプト](#)」も参照してください。

FGAC

「[きめ細かなアクセス制御](#)」を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

[変更データのキャプチャ](#)による継続的なデータ複製を利用して、段階的なアプローチではなく、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

「[基盤モデル](#)」を参照してください。

基盤モデル (FM)

大規模な深層学習ニューラルネットワークであり、一般化およびラベル付けされていないデータからなる大規模データセットでトレーニングされています。FMにより、言語理解、テキストおよび画像生成、自然言語での会話といった、一般的な各種タスクを実行できます。詳細については、「[基盤モデルとは何ですか?](#)」を参照してください。

G

生成 AI

[AI](#) モデルのサブセット。大量のデータでトレーニングされており、シンプルなテキストプロンプトを使用して、画像、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できます。詳細については、「[生成 AI とは何ですか?](#)」を参照してください。

ジオブロッキング

「[地理的制限](#)」を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするための、Amazon CloudFront のオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リスト

を使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの「[コンテンツの地理的ディストリビューションの制限](#)」を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローは古いと見なされている方法であり、[トランクベースのワークフロー](#)は推奨されている新しい方法です。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアのスナップショットであり、システムまたはソフトウェアの新規インスタンスをデプロイするテンプレートとして使用されます。製造の例で言えば、ゴールデンイメージを使用すると、複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングして、デバイス製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、AWS Security Hub CSPM、Amazon GuardDuty、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

「[高可用性](#)」を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCT を提供します。](#)

高可用性 (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

[機械学習](#) モデルのトレーニング用データセットから保留される、ラベル付き履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用すると、モデル予測をホールドアウトデータと比較して、モデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性が高いため、通常の DevOps のリリースワークフローからは外れた形で実施されます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

IaC

「[Infrastructure as Code](#)」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「[インダストリアル IoT](#)」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存インフラストラクチャの更新、パッチ適用、変更などを行わずに、本番環境ワークロードに使用する新規インフラストラクチャをデプロイするモデル。本質的に、イミュータブルインフラストラクチャは、[ミュータブルインフラストラクチャ](#)よりも一貫性、信頼性、予測性に優れています。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークにある「[イミュータブルインフラストラクチャを使用してデプロイする](#)」のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

I

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016 年に [Klaus Schwab](#) 氏が提唱した用語で、接続、リアルタイムデータ、オートメーション、分析、AI/ML の進歩による、ビジネスプロセスのモダナイズを意味します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

インダストリアル IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[インダストリアル IoT \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築](#)」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS」](#)を参照してください。

IoT

[「IoT」](#)を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

ITIL

[「IT 情報ライブラリ」](#)を参照してください。

ITSM

[「IT サービス管理」](#)を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロードとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[「安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ」](#)を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータで事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM では、質問への回答、ドキュメントの要約、他言語へのテキスト翻訳、文を完成させるなど、さまざまなタスクを実行できます。詳細については、「[大規模言語モデル \(LLM\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

「[ラベルベースアクセス制御](#)」を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの「[最小特権アクセス許可を適用する](#)」を参照してください。

リフトアンドシフト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

LLM

「[大規模言語モデル](#)」を参照してください。

下位環境

「[環境](#)」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティやプライバシーを侵害するように設計されたソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスを招く可能性があります。マルウェアの例には、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスはインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、エンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。マネージドサービスの例として、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB が挙げられます。このサービスは、抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するソフトウェアシステムであり、工場では、これによって、原材料から製品を完成させます。

MAP

[「Migration Acceleration Program」](#) を参照してください。

メカニズム

ツールを作成してその導入を推進し、導入結果を調べて調整を行うための包括的なプロセス。メカニズムとは、運用中にそれ自体を強化し改善するサイクルを意味します。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の [「メカニズムの構築」](#) を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#) を参照してください。

Message Queuing Telemetry Transport (MQTT)

[発行/サブスクリプション](#) のパターンに基づく、軽量のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコルであり、リソースに限りのある [IoT](#) デバイスに使用されます。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス

機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドに移行するための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストおよび所有者、移行エンジニア、デベロッパー、およびスプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と [Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例としては、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

オンラインツール。これによって、AWS クラウドに移行するビジネスケースの検証に必要な情報を得られます。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナー コンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#)を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#)の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを AWS クラウドに移行するために使用するアプローチ。詳細については、この用語集の [7 Rs](#) エントリと、「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

「[機械学習](#)」を参照してください。

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイズ戦略](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を評価する](#)」を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、「[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)」を参照してください。

MPA

「[Migration Portfolio Assessment](#)」を参照してください。

MQTT

「[Message Queuing Telemetry Transport](#)」を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルなインフラストラクチャ

本番ワークロードに使用する既存のインフラストラクチャを更新および変更するためのモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

「[オリジンアクセス制御](#)」を参照してください。

OAI

「[オリジンアクセスアイデンティティ](#)」を参照してください。

OCM

「[組織変更管理](#)」を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

Ola

「[オペレーショナルレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

Open Process Communications - Unified Architecture (OPC-UA)

産業オートメーション用のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA により、相互運用の際に、データ暗号化、認証、認可の各スキームを標準化できます。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

質問と関連するベストプラクティスのチェックリスト。インシデントや起こり得る障害を理解、評価、防止したり、その範囲を縮小したりする際に役立ちます。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Operational Readiness Reviews \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携させるハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造分野では、[Industry 4.0](#) への変革を進める上で、OT と情報技術 (IT) システムの統合に焦点が当てられています。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録することによって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードにより、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセス制御 (OAC)

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するための、CloudFront のアクセス制限の強化オプション。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

CloudFront の、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセス制限オプション。OAI を使用すると、CloudFront が、Amazon S3 に認証可能なプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、S3 バケット内のコンテンツに、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみアクセスできます。[OAC](#) も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセス制御が可能です。

ORR

「[運用準備状況レビュー](#)」を参照してください。

OT

「[運用テクノロジー](#)」を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。AWS Security Reference Architecture では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

「[個人を特定できる情報](#)」を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

「[プログラマブルロジックコントローラー](#)」を参照してください。

PLM

「[製品ライフサイクル管理](#)」を参照してください。

ポリシー

次の操作を可能にするオブジェクト: アクセス許可を定義する ([ID ベースのポリシー](#)を参照)。アクセス条件を指定する ([リソースベースのポリシー](#)を参照)。AWS Organizations の組織における全アカウントにアクセス許可の上限を定義する ([サービスコントロールポリシー](#)を参照)。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行の準備状況の評価](#)」を参照してください。

述語

true または false を返すためのクエリ条件。一般的に、WHERE 句に記述されます。

述語プッシュダウン

データベースクエリを最適化する手法。これによって、転送前にクエリ内のデータをフィルタリングします。この手法を取ると、リレーショナルデータベースから取得し処理する必要のあるデータの量が減少するため、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[予防的コントロール](#)」を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM AWS アカウントロール、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールに関する用語と概念](#)」にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通してプライバシーが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1 つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠リソースのデプロイ防止を目的とした[セキュリティコントロール](#)。このコントロールにより、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。コントロールに準拠していないリソースは、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

製品の設計、開発、発売から、成長、成熟、衰退、廃棄に至る、製品のライフサイクル全体を通してデータとプロセスを管理すること。

本番環境

「[環境](#)」を参照してください。

プログラマブルロジックコントローラー (PLC)

製造分野で使用される、信頼性と適応性に優れたコンピュータであり、これによって、マシンをモニタリングするとともに、製造プロセスを自動化します。

プロンプトチェイニング

1 つの [LLM](#) プロンプトによる出力を次のプロンプトの入力に使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法を使用すると、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前レスポンスを繰り返し改良または拡張したりできます。これによって、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、粒度の高いパーソナライズされた結果を得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

発行/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。これにより、スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの [MES](#) の場合、マイクロサービスは、他のマイクロサービスがサブスクライブ可能なチャンネルにイベントメッセージを発行できます。このシステムでは、発行サービスの変更なしに、新規マイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

手順などの一連のステップであり、SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用されます。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RAG

「[検索拡張生成](#)」を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RCAC

「[行と列のアクセス制御](#)」を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

リアーキテクト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービスが中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、「[アカウントが使用できる AWS リージョンを指定する](#)」を参照してください。

リグレッション

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リプラットフォーム

「[7 Rs](#)」を参照してください。

再購入

「[7 Rs](#)」を参照してください。

回復性

中断に抵抗または中断から回復するアプリケーションの機能。AWS クラウドでの回復力を計画する際には、一般的に、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が考慮されます。詳細については、「[AWS クラウドの耐障害性](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートが含まれる場合は RASCI マトリックスと呼ばれ、含まれない場合は RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[レスポンスコントロール](#)」を参照してください。

保持

「[7 Rs](#)」を参照してください。

廃止

「[7 Rs](#)」を参照してください。

検索拡張生成 (RAG)

[生成 AI](#) の技術。これにより、[LLM](#) では、レスポンスの生成前に、トレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースが参照されます。例えば、RAG モデルによって、組織のナレッジベースまたはカスタムデータのセマンティック検索を実行できる場合があります。細については、「[RAG \(検索拡張生成\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

ローテーション

定期的に[シークレット情報](#)を更新して、攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「[目標復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「[目標復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdP) が使用しているオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべてのユーザーを IAM で作成しなくても、AWS マネジメントコンソールにログインしたり AWS、API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの「[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)」を参照してください。

SCADA

「[監視制御とデータ取得](#)」を参照してください。

SCP

「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存するパスワードやユーザー認証情報などの AWS Secrets Manager 機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値には、バイナリ、1 つの文字列、複数の文字列を指定できます。詳細については、Secrets Manager ドキュメントの「[Secrets Manager シークレットの概要](#)」を参照してください。

セキュリティバイデザイン

開発プロセス全体を通してセキュリティが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、主に 4 つの種類があります。4 つとは、[予防](#)、[検出](#)、[レスポンス](#)、[プロアクティブ](#)です。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントへの自動レスポンスまたは自動修復を目的として、事前定義およびプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報の更新などがあります。

サーバー側の暗号化

送信先にあるデータの、それ AWS のサービスを受け取る による暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエンドポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットといった、サービスパフォーマンス面の指標。

サービスレベル目標 (SLO)

[サービスレベルインジケータ](#)によって測定され、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、お客様はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

SIEM

「[Security Information and Event Management システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

特定のアプリケーションを構成する単一の重要なコンポーネントで発生し、システム稼働に支障をきたす可能性のある障害。

SLA

「[サービスレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

SLI

「[サービスレベルインジケータ](#)」を参照してください。

SLO

「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。

スプリットアンドシードモデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ](#)」を参照してください。

SPOF

「[単一障害点](#)」を参照してください。

スタースキーマ

データベースの編成構造を意味し、1つの大きいファクトテーブルにトランザクションデータまたは測定データが保存され、1つ以上の小さいディメンションテーブルにデータ属性が保存されます。この構造は、[データウェアハウス](#)やビジネスインテリジェンスを用途とするように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler](#) により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視制御とデータ取得 (SCADA)

製造分野において、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと本番運用をモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして、起こり得る問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりすることで、システムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用すると、こうしたテストを作成できます。

システムプロンプト

コンテキスト、指示、ガイドラインなどを提示して、[LLM](#) に動作を指示する手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定して、ユーザーとやり取りするルールを確立するのに有用です。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

「[環境](#)」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要とときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[他の AWS のサービス AWS Organizations で使用する AWS Organizations](#)」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 枚のピザを分け合えることができるくらい小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の 2 つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化ガイド](#)を参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

「[環境](#)」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2 つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに何らかの形で関連している行のグループに計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均を計算したり、現在の行の相対位置に基づいて他の行の値にアクセスするといったタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

「[Write-Once-Read-Many](#)」を参照してください。

WQF

「[AWS ワークロード資格フレームワーク](#)」を参照してください。

Write-Once-Read-Many (WORM)

データを 1 回のみ書き込むことで、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認済みユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは、[イミュータブル](#)と見なされます。

Z

ゼロデイ 익스プロイト

[ゼロデイ脆弱性](#)を悪用した攻撃（一般的にマルウェアによる）。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

[LLM](#) にタスク実行の手順は提示するが、実行のガイドとして役立つ例（ショット）は提示しない方法。LLM は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。「[数ショットプロンプト](#)」も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。